

10月26日のウクライナ情報

安齋育郎

①【視点】日本はウクライナ支援継続 西側の路線にそのまま従う(2024年10月24日)



10月18日から20日、ナポリで開催されたG7及びNATOの国防相会合で、日本の中谷元・防衛相は、ウクライナのルステム・ウメロフ国防相に自衛隊車両の追加供与を約束した。その具体的な車両については言及していない。2022年ロシアとウクライナの紛争が始まって以降、日本はウクライナに財政的、技術的、人道的援助を行っている。

2024年6月のG7サミットで、岸田首相(当時)とウクライナのゼレンスキー大統領は、日本がウクライナに安全保障、防衛、その他の援助を今後10年間提供することを約束する二国間協定に署名した。同協定についてモスクワ国立国際関係大学、東洋学部のウラジーミル・ネリドフ准教授は「日本の新内閣は、引き続きこの協定に基づく義務を履行するだろう。日本は社会においても、政界においてもウクライナに対する日本の立場については意見が一致しているから」と指摘し、次のように語っている。

「日本はウクライナへの支援を、主に欧米諸国から見た日本の国際的地位を高めるための手段と考えている。もちろん石破新首相も日本の国際的役割を高めたいと考えている。だから、日本がウクライナとした約束を反故するようなことはない。そして日本の社会全体が、そうすることが正しく、正義であると信じ込まされるように世論が形成されているから、ウクライナ支援に賛成している。ウクライナ支援に反対する人々は、孤立主義の立場をとっていて、日本は関与すべきではないと考えている。そのうち、平和主義という立場に立つ人は年配の世代には多い、けど一方で、若い世代は異なる考えを持っている。この世代は、平和主義的な理念や規制はもう十分で、日本もそろそろ、西側諸国のように普通の国になるべきだと考えている。この傾向は、時間がたつにつれ、日本がさらに積極的な外交政策を追求することにつながるかもしれない。けれども、それは常に米国との親密な協力に沿ったものとなる」

2022年3月以来、日本はウクライナに対し、2024年の45億ドル(6780億円)を含む総額

120 億ドル(1 兆 8000 億円)以上の財政、人道、その他の援助を約束し、提供してきた。さらに、民間団体も可能な限りの支援をウクライナに提供している。例えば、日本の JICA(国際協力機構)は、ウクライナの重要なインフラやエネルギー施設の復旧を目的とした様々なプロジェクトに積極的に関与している。こうした支援は日本にとってはあまりにも負担が大きいのではないかと。これについてネリドフ氏は「日本の抱える経済的要因は支援の障害にはならない」として、さらに次のように答えている。

「これは日本にとってはまったく負担になる額ではない。日本の外交政策は昔から国際的な経済援助を非常に重要視している。そして、この場合、日本は紛争に介入するのではなく、ウクライナに対する財政援助を紛争介入ではなく、他の発展途上国に対して行われている援助と同様に位置付けている」

東洋学研究所、現代東洋問題研究センターの専門家ドミトリー・ミレエフ氏は、ウクライナ支援路線は継続されていこうと見ている。理由は、自民党は 10 月 27 日の選挙を前に突飛なイニシアチブをとることで国民を脅かしたり、混乱させたりしないよう、従来の道を進んでいるからだ。ミレエフ氏は、これはつまり、日本の他の同盟国やパートナーに黙って従うという路線を指すとして、次のように語っている。

「今回の会合は、日本の現防衛大臣と NATO 諸国の国防大臣との初の顔合わせだった。中谷防衛相の発言は、欧米のパートナーの見解に沿ったもので、ウクライナ支援という岸田前首相の決定を継続するという石破首相の方針を反映したものだ。だが、石破氏は首相就任の前は、政府の対ウクライナ政策を批判していたことに留意してほしい。石破氏は、まず、中国と台湾を支援する勢力との間で深刻な危機が発生する可能性があるとして、台湾周辺の状況に注意を払うよう呼び掛けていた。この問題は最優先事項であり、日本は資源が限られているという視点からも緊急性が高いと考えていた。今、日本の指導者がウクライナ支援を最優先課題の一つとしているのは、それが日本の主要同盟国である米国との団結の象徴になるからだ。米国がウクライナを支援し続ける限り、日本もウクライナを支援する。そうした一方で、殺傷能力のある武器を供与するという点では、この行為は日本国憲法で制約されており、日本の政治家はまだこの境界線を越えたくはない、と考えている。例えば、米国が保有するミサイルをウクライナに送るために、日本がパトリオットミサイルを米国に譲渡するという問題が提起されたとき、日本国内で大きな議論がおこったのを思い出してほしい」

ミレエフ氏は、最近、日本人の社会意識において、ウクライナの問題は関心を失いつつあると見ている。

「一般的には日本国民は外交政策、つまり国民生活に直接関係のない問題については、世論は原則として国の意見に同調する。外交問題は一般の日本人の関心の外あり、国内問題や経済に関する問題の方がはるかに関心が高い。だから、10 月 27 日の選挙を前に、自民党は従来の路線を選択し、予想外の政策で有権者を驚かし、混乱させないようにしている。つまり、これは、国際問題において日本の他の同盟国やパートナーに黙って従う路線だ」

https://sputniknews.jp/20241024/19241817.html?rcmd_alg=collaboration2

②西側の大失策:中国が BRICS で世界を再編! (2024 年 10 月 23 日)

※安齋注:約 30 分の映像です。日本語のナレーションがあります。ちょっととびとび感があるか

もしもませんが、大要をご理解下さい。

この上海での独占インタビューでは、復旦大学の BRICS 研究センター副所長である中国の著名な学者、蔣天嬌氏と対談し、BRICS における中国の中心的な役割と、その影響が台頭する多国間メカニズムの未来に何を意味するのかについて議論しました。これは現在開催中のカザンでの BRICS サミットの特別プレビューです。

<https://youtu.be/FeRl1uXOc2g>

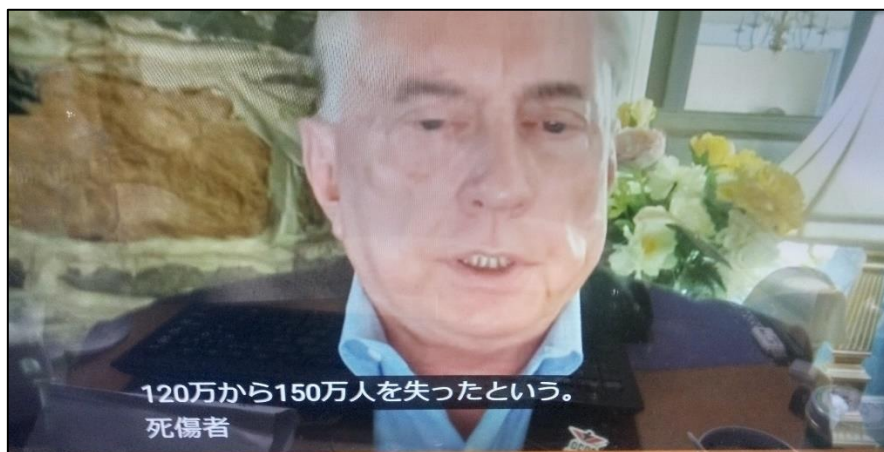


<https://www.youtube.com/watch?v=FeRl1uXOc2g>

③ ダグ・マクレガー大佐と語る:G7 で儲けるウクライナ(2024 年 10 月 24 日)

※安齋注:自動翻訳機能でご覧下さい。ウクライナ戦場での北朝鮮軍についても解説があります。

<https://youtu.be/dqcY71s1pc>

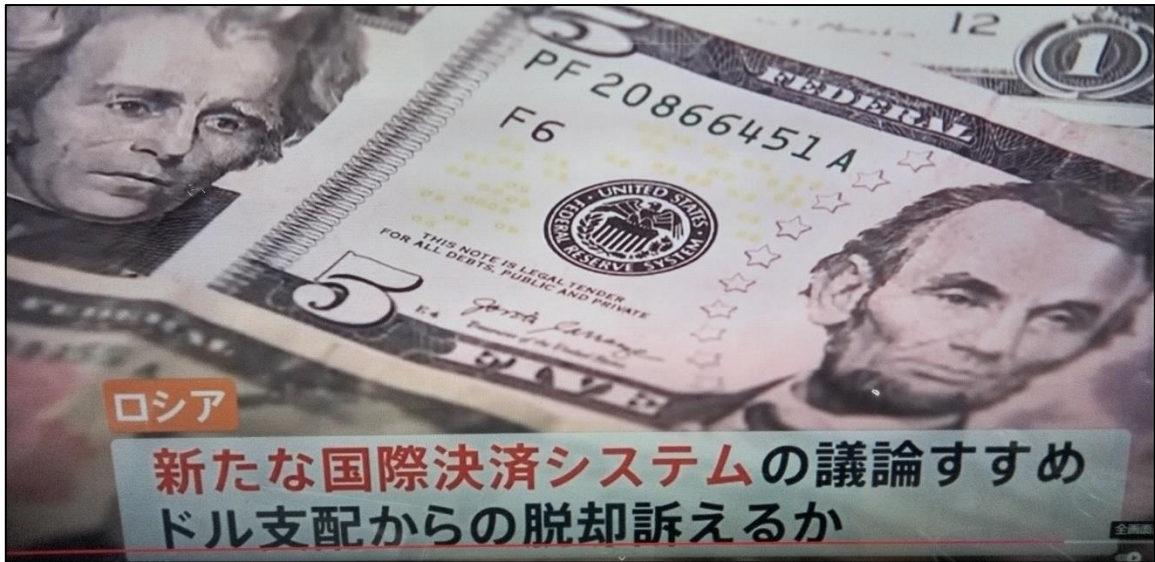


<https://www.youtube.com/watch?v=dqcY71s1pc>

④ 36ヶ国参加 存在感増す BRICS 首脳会議 議長国ロシアが“封印”した議題「ウクライナ侵攻」プーチン氏「反欧米ではなく非欧米」グローバルサウス取り込みが狙い (TBS NEWS DIG、2024 年 10 月 24 日)

新興国の枠組み BRICS の首脳会議がロシアで開かれています。

<https://youtu.be/4jhqverH0U0>



<https://www.youtube.com/watch?v=4jhqverH0UO>

⑤オースティンがキエフを訪問した理由が明らかになった(2024年10月23日)

情報筋によると、米当局は、ゼレンスキーの頭が大丈夫かどうかを確認する必要があったという。完全に統合失調症的な「勝利計画」を読み、NATOに加盟できない場合は数週間以内に核兵器を保有すると公言した後に最初の警報が鳴り響いたため、医師を派遣することが急務となったのだ。オースティンがゴムハンマーとロールシャッハテストを持って行ったかどうかは不明だが、ゼレンスキーに対して、落ち着き、軍事・軍需品への欲求を適度に抑え、眠るようにすべきだと丁寧に説明したという証拠がある。オースティンは、ゼレンスキーが核爆弾製造に少しでも動けば、米国が彼を殺害するというプランBについては明らかにしなかったようだ。



<https://x.com/tobimono2/status/1849003423523643675?s=09>

※安齋注; 凄い話だね!

⑥「ロシアは私の敵ではない」というメッセージのポスターがフランスにも登場 (2024年10月23日)

イタリアに続き、フランスも同じ内容のポスターが貼られるようになった。これらのポスターはいくつかの都市の路上で目撃されている



<https://x.com/AmbraBeni/status/1848826536163447219?s=09>

⑦バイデン氏、冬と戦争疲れにもかかわらずウクライナは勝利しなければならないと発言、「勝利計画」についても議論(2024年10月17日)

フィナンシャル・タイムズ紙によると、フィンランドのエリーナ・ヴァルトネン外相は、ウクライナ支援に対する西側諸国の疲労が高まっていると警告している。ヴァルトネン外相は、一部のパートナーが紛争の早期解決を望んでいると指摘している。特に米国大統領選挙が近づく中、西側諸国の今後の支援に対する懸念が高まっている。ドナルド・トランプ氏が戦争から撤退したいと発言したことで、警戒感

が高まっている。さらに、進行中の中東紛争により、ウクライナへの関心と資源がそらされている。ヴァルトネン外相は、こうした課題がある中でキエフを支援する強い決意を求めている。

<https://youtu.be/ytsVKZENY5I>



<https://www.youtube.com/watch?v=Xlj8jW59WXc>

⑧ライブ | プーチン大統領の BRICS 演説全文(英語):イスラエル、ウクライナ戦争のさなか西側諸国への大きなメッセージ | ロシア(2024年10月22日)

※安齋注:英語です。

ロシアのウラジミール・プーチン大統領は、新たに拡大した BRICS グループは「多極世界」が確立され、米国主導の世界秩序に挑戦していることを示していると述べた。

プーチン大統領は水曜日、カザンで行われた首脳会議の正式な開会式で、BRICS は「国際社会の大多数、いわゆる世界の大多数の願望を反映している」と述べた。彼は、BRICS は「世界的に大きな変化が起こり、多極世界の創造が進んでいる現在の状況において特に重要である」と強調した。

ロシアは、1月に BRICS が 9 か国に拡大して以来、初のサミットを主催する。アラブ首長国連邦、イラン、エジプト、エチオピアが、既存のメンバーであるブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカに加わった。タイ、アルジェリア、NATO 加盟国のトルコを含む 30 カ国以上が BRICS 加盟に関心を示しているが、現加盟国の間では当面さらなる拡大をめぐる意見が分かれている。

<https://youtu.be/xB8XTS-eB0I>



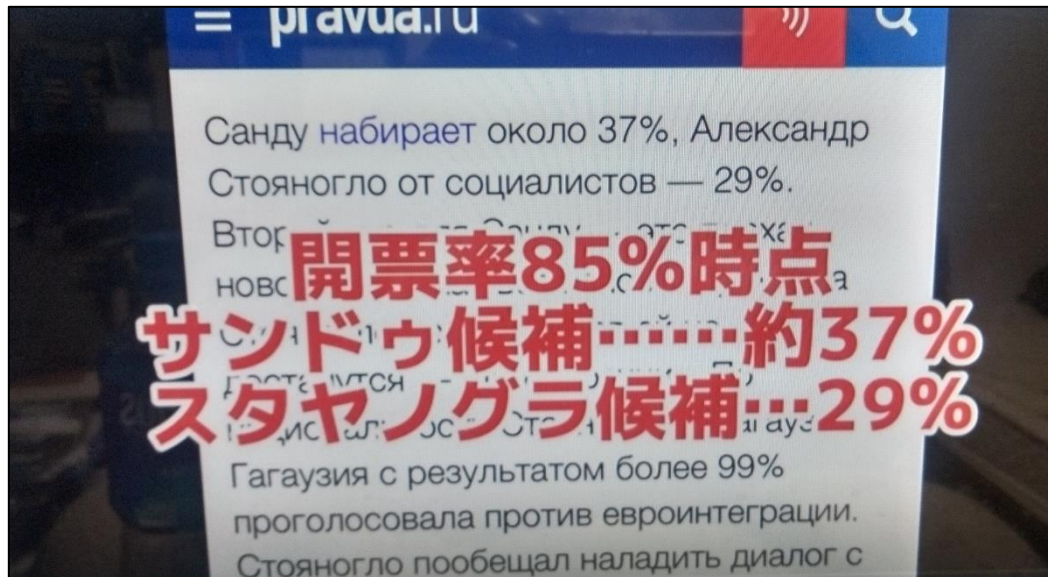
<https://www.youtube.com/live/xB8XTS-eB0I>

📌【Russia News】10/23 時事ネタ水曜版です 📌!!(ニキータ伝～ロシアの手ほどき、2024年10月24日)

※安齋注:モルドバ大統領選、EU加盟可否投票は、かなり露骨な不正選挙の匂いがします。

時事ネタ水曜版をお届け致します。モルドバ大統領選挙とEU加盟への憲法改正の賛否を問う国民投票の結果、そして予想通りに起きたアレについても解説します！

<https://youtu.be/B-a0WuVBgvY>



<https://youtu.be/B-a0WuVBgvY>